

第 56 回目 パウロの祝祷

はじめに

●エペソ人への手紙の講解説教はいよいよ今回で最終回となりました(実際は、2007年8月19日から1年3ヶ月をかけて学んできました)。説教のスタイルとして〔講解説教〕と〔主題説教〕の二つがありますが、講解説教はひとたびはじめるならば途中でやめることができません。ですから、しばしば「これにしなければよかったな」と後悔することがあります。しかし、辛抱しながら、しっかりやり通すならば、語る側も、また聞く側も聖書を理解する力がつきます。語る方も、自分の好きなテーマだけに取り組むわけではないので、多岐にわたる栄養が与えられることとなります。食事と言うならば、できるだけいろいろな食物を好き嫌いせずに摂取するということとなります。一方の「主題説教」は、語る者にとって興味のあるテーマ、あるいは、聴衆にとって大切なテーマについてまとめて語ることができます。食事と言うならば、自分が好きなものを食べるということです。いつもこうしたものを食べているならば、栄養が偏り、やがてバランスを崩すようになります。

●私の場合、これまでを振り返るならば、この二つを交互にやってきました。講解説教の中にもあるテーマを見つけて、主題説教のようにして話している場合もあります。いずれにしても、説教するということは、いつも準備が要りますし、皆さんの知らない大変さがあります。また、いつも、きちんとまとまるかどうかという怖れや不安と戦いながら、準備しているわけです。そんなことをたまには知っていただいて、説教者のためにも祈っていただきたいと思います。

●さて、今回の説教タイトルを「パウロの祝祷」としましたが、手紙と言うならば、最後の挨拶とでもいう部分です。まずは、そこを開いて読んでみたいと思います。

【新改訳改訂第3版】エペソ人への手紙 6章 23~24節

23 どうか、父なる神と主イエス・キリストから、平安と信仰に伴う愛とが兄弟たちの上にありますように。

24 私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に、恵みがありますように。

◆この祝祷(最後の挨拶)の中にある、重要と思われる言葉をチェックして(黄色にして)、再度読んでみたいと思います。

23 どうか、父なる神と主イエス・キリストから、**平安**と信仰に伴う**愛**とが兄弟たちの上にありますように。

24 私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に、**恵み**がありますように。

●「黄色」にしたことばは三つあります。ひとつは「平安」、次は「愛」、そしてもう一つは「恵み」です。それらが、主にある兄弟たちの上に、キリストを愛する者たちすべての上にあるようにと祈っているのです。「信仰」も黄色にしようかなと思いましたが、「信仰に伴う愛」という表現であり、「愛」の方に強調点があるということ

で、「愛」という言葉のみにしました。いずれにしても、信仰があつてはじめて愛が伴うことになるので、密接な関係をもっています。大切なことは、これらのことば「平安、愛、恵み、信仰」は、すべて神から、主イエス・キリストを通して与えられる神の賜物(プレゼント)だということです。それが「あなたがた」という二人称ではなく、「兄弟たちのうえに」「キリストを愛するすべての人の上に」あるようにしているわけです。

## 1. 聖書における「祝祷」は、手紙の「挨拶」と同じです

●礼拝のプログラムの一番最後にあるのは何でしょうか。私たちの教会ではプログラムを作っておりませんので、きちんとした言葉で知っている人は少ないかも知れませんが、もしプログラムがあるとすれば、礼拝の一番最後の項目にはどこの教会でも「祝祷」となっています。

●伝統のある教会では、権威を意識づけるために(?)、だれでも祝祷できないようになっています。牧師になっても、按手礼を受けて洗礼式や聖餐式を執行できるようになってはじめて祝祷ができる資格があるように、私は思ってきました。按手礼を受けていない牧師、あるいは副牧師がする場合には、「祝祷」ではなく「終祷」とされる、そのような教会で私は生まれ育ちました。

●「祝祷」できる牧師はそれなりの権威があるかのように、退任した牧師が礼拝の終わりで祝祷をする教会がありますが、その場合には「祝祷牧師」という名誉なのか、「祝祷しかできなくなった牧師」という不名誉なのか、いずれにしても、祝祷とは人々を祝福する祈りのことです。決して権威ある者でなければできないというわけではありません。手紙でいうならば、最後の挨拶なのでから。今回は、みなさんもどんどん祝祷をしていただきたいし、聖書的な挨拶をどんどん取り入れて自分のものとして使ってみましょうというのが、今回のメッセージのポイントです。

●ちなみに、手紙であるならば、必ず、最初に自分がだれで、だれに手紙を宛てたのかが明記された後に、相手に対する「挨拶」がきます。エペソ人への手紙の最初にある挨拶を見てみましょう。

「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」(エペソ 1:2)

●これも祝祷なのですが、手紙で言うならばれっきとした挨拶です。皆さんは、礼拝が始まる時に、どんなことばで挨拶をされましたか(当教会では、ある時期、ずっと礼拝前の挨拶は「恵みと平安がありますように」と言って握手で挨拶を交わしてきました)。これは相手に対する祝祷なのです。教会は祝祷を牧師だけの特別なものにするのではなく、主にある者たち一人ひとりが祝祷できる信者となってほしいのです。

●今回の主題は、私たちが口にする「挨拶」について扱おうとしています。「グッド・バイ」という別れの時にする挨拶があります。このことばはどういう意味をもった挨拶なのかほとんど考える人はいません。別れのときの決まり文句のようなものとして習慣的に使っていますが、しかしこの挨拶はとて素晴らしい内容をもった挨拶なのです。

## אגרת שאול אל האפסים

●この「グッド・バイ」は英語の挨拶です。英語で Good-by と書きますが、このことばはある挨拶が簡略したことばです。簡略しないもとの挨拶は God bless you (神があなたを祝福してくださいますようにという意味の挨拶)の bless の「b」、you の「y」の頭文字だけをとってつないで、by とし、また、God を Good に変えて Good-by としているわけです。なぜなら、God is good (God=good の世界)、ですから God を Good に変えても何ら問題はありません。ある辞書では、Good-by の元のことばを God be with you(神があなたと共にいてくださいますように)だとしているものもありますが・・・。  
私は前者の解釈に賛同します。



## 2. 新約聖書にある手紙の挨拶(祝禱)

●さて、新約聖書(27 巻)にある「○○○の手紙」と言われるものの中に、どのような挨拶が記されているかをこれから見てみたいと思います。大きく分けて「パウロの手紙」とそれ以外の手紙に分けられますが、内容的には、きちんと挨拶のある手紙とそうでない手紙があります。

●日本における手紙の書き方として二つのタイプがあります。それはきちんと挨拶するタイプとそれを省略するタイプです。

(1)「拝啓(謹啓)・・・敬具」(拝啓も敬具も、「慎んで申し上げます」という意味)

(2)「前略・・・草々」(前略は挨拶を省略すること、草々は取り急ぎ走り書きという意味)

(1)の「拝啓型」の手紙は、かなり気合の入った手紙であり、心のこもった手紙といえます。

(2)の「前略型」の手紙は、相手に要件が伝われば「良し」とする手紙と言えます。

●以下、順序が逆になります。(2)を A とし、(1)を B としたいと思います。

### A. 挨拶ぬきの手紙・・・「前略型」

●これ以外の手紙、たとえば、ヘブル人への手紙、ヤコブの手紙、ヨハネの手紙などは挨拶なしで、「前略型」と言ったところですが。何も特別に取り急いでいるわけではないようです。ヤコブなどは、「イエス・キリストのしもべヤコブが、国外に散っている部族へ挨拶を送ります。」と記したあと、いきなり、「私の兄弟たち、さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。」と入って行きます。挨拶の中身がありません。ヘブル人への手紙、ヨハネの手紙には挨拶の「あ」の字もありません。

### B-1 パウロの手紙の挨拶の定型句・・・「拝啓型」

① ローマ 1:7

「私たちの父なる神と主イエス・キリストから恵みと平安があなたがたの上にありますように。」

② コリント第一 1:3、第二 1:2

## אגרת שאול אל האפסים

「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」

「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」

③ ガラテヤ 1:3

「どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」

④ エペソ 1:2

「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」

⑤ ビリピ 1:2

「どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」

⑥ コロサイ 1:2

「・・・。どうか、私たちの父なる神から、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」

⑦ テサロニケ第一 1:1/第二 1:2

「恵みと平安があなたがたの上にありますように。」

「父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」

⑧ テモテ第一 1:2、第二 1:2

「父なる神と私たちの主なるキリスト・イエスから恵みとあわれみと平安とがありますように。」

「父なる神および私たちの主キリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安がありますように。」

※テモテに対してだけに、恵みと平安の間に「あわれみ」が入っているのはなぜか。

⑨ テトス 1:4

「父なる神および私たちの救い主なるキリスト・イエスから、恵みと平安がありますように。」

⑩ ビレモン 1:3

「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」

### B-2 パウロ以外の手紙で挨拶のあるもの・・・「拝啓型」

① ペテロ第一 1:2/5:14、第二 1:2

「どうか、恵みと平安が、あなたがたの上ますます豊かにされますように。」

「キリストにあるあなたがたすべての者に、平安がありますように。」(終わりの挨拶)

「神と私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたの上ますます豊かにされますように。」

② ユダ 1:2

「どうか、あわれみと平安と愛が、あなたがたの上に、ますます豊かにされますように。」

●ペテロもユダも、パウロにはない「ますます豊かに」というフレーズが入っているのが特徴的。と同時に、ユダはパウロともペテロとも違う。みな挨拶も個性的だということなのです。

●手紙の挨拶の中に使われている用語は以下の四つ。この中から今回は、「恵み」と「平安」と「愛」という言葉を取り上げたいと思います。

## 2. 聖書の挨拶用語を正しく理解して、納得して使おう!

### (1) 恵み

●「恵み」ということばが意味していることを正しく理解しなければなりません。「恵み」とは、受けるに値しない、受ける資格のない者に与えられる神の一方的な好意です。神の気前よい愛の計らいです。このことをよく表しているたとえ話をイエシュアはなさいました。「天の御国は、自分のぶどう園で働く労務者を雇いに朝早く出かけた主人のようなものです。」とイエシュアは言われました。これではなんのことか分かりません。ですから、話がこのあと続くのです。この主人は朝早く出かけて労務者を雇いました。一日1デナリの約束です。朝九時頃にも出掛けていくと、仕事がない人たちに出会いました。「ぶどう園に行って働きなさい。」・・また、十二時頃にも、三時頃にもそうしました。そしてなんと五時頃にも同じようにしたのです。夕方になって賃金を払うことになりました。まず最後の者から払われましたが、五時頃に雇われた者にも、朝から働いた者にも1デナリずつ支払われました。この中で1デナリをもらう資格のない者はだれでしょうか。

●1デナリとは、当時、一家が食べていくに必要な額でした。このぶどう園の主人は、仕事がなく、後になって雇われた者にも同じように1デナリを与えたのです。これが恵みです。働きの量から言うならば、朝から働いた者たちの方がずっと多いはずですが、しかしこのぶどう園の主人は恵みによって与えたのです。「天の御国はこのような主人のようなものです。」と言われたのです。

●私たちの働きによらず、生産性によらず、能力によらず、一方的に人が必要とするものを、たとえその資格を有していなくても与える方なのです。私たちが「神の子どもとされること」も、「罪の赦し」も、「御国を受け継ぐこと」も、すべて神の一方的な恵みなのです。そんな恵みがあなたの上にもありますように、というのが、パウロの挨拶なのです。すばらしい挨拶ではないでしょうか。すばらしい祝福ではありませんか。私もその神の恵みを受けたので、あなたの上にもそれがますます豊かに与えられますようにという祝福の挨拶です。絶対に使うべきです。「お元気で・・・」よりもずっとすばらしい挨拶です。

### (2) 平安

●「平安」ということばは旧約聖書のシャーロームから来ています。シャーロームは以下の神の祝福の総称です。

- ① 平和 (対国、対神、対人) 和平、和解
- ② 平安 (個人的) 平穩、無事、安心、安全
- ③ 繁栄 (商業的)
- ④ 健康 (肉体的、精神的) 健全、成熟
- ⑤ 充足 (生命的) 満足、生きる意欲
- ⑥ 知恵 (学問的) 悟り、靈的開眼
- ⑦ 救い (宗教的) 暗闇から愛の支配へ
- ⑧ 勝利 (究極的) 罪と世に対する勝利

●シャーロームの状態を別の言葉で表現すると、詩篇 1 篇にある表現ですが、「何をしても栄える」という祝福のイメージです。そんなシャーロームが与えられるようにと挨拶することはすばらしいことではありませんか。まことの神を知る者しか言えない祝福の挨拶です。

### (3) 愛

●最後にあわれみを含んだ「愛」を加えることで、よりすばらしい挨拶となります。今回のエペソ人への手紙 6 章 22 節、23 節にはこの「愛」が挨拶の中に登場してきます。その愛のひとつは「神からの愛(アガペー)」です。もうひとつは「神に向かったの愛」です。ご存じのとおり「愛」とは、単独で存在する概念ではなく、愛する相手があり、また相手も愛をもって応えるという関係があって初めて成立するものです。ですから、愛を分かち合う対象が存在しなければ、愛という関係も存在しません。

●そもそも聖書の神が三位一体の神であるということが、愛の神であることを宣言しているのです。聖書は、唯一である神ご自身の性質に関して「神は愛です (4:8、4:16)」と語っています。これはどのような意味でしょうか。神は永遠に存在しますから、神による創造が始まる前、すなわち愛を分かち合う存在としての天使も動物も人間も存在せず、ただ神だけがおられた時に、神の性質を「神は愛です (4:8、4:16)」ということが出来るのでしょうか。出来るのです。それは、神が三位一体であるゆえに可能なのです。三位一体とは、「父なる神」「子なる神」「聖霊なる神」のそれぞれの独立した人格を持っておりながら、一つの存在としておられるということです。それは、父と子と聖霊が、完全に互いに愛し合っているゆえに、愛の対象が外部に存在しなくても、神ご自身の中で完全な「愛」の性質が存在するのです。ですから神が三位一体であるならば、「神は愛です」(4:8、4:16)ということが出来るのです。

●「愛」は、他の人に分け与える時に、更に大きく成長するものです。子どもを愛情深く育てるということは、ほかの何ものをさしおいても、子どもに注目して手をかけなければならないという事ではありません。愛は外に流れ出て他に影響を与えるものです。ですから、両親が親しく愛し合っていることを子どもが感じている時は、子どもの愛も豊かにされ人生の喜びや楽しさのうちの最善のものが、心の中に育まれて行くと、私は確信しています。子どもは、父と母の温かい愛の交流を体で感じ、その心に、生きている喜びと安らぎが満ちあふれる。……両親が愛情で結ばれている家庭では、子どもは柔順で、人を愛したり、人の世話が出来たりするようになると信じます。

●第 2 次世界大戦時に、ヨーロッパを襲ったナチスのユダヤ人に対する迫害から、多くの人々の命を守り救った人として、ドイツのオスカー・シンドラーや日本の旧リトアニア領事代理の杉原千畝はよく知られています。しかしラウル・ワレンバークという人の話です。ナチスの迫害からユダヤ人を助けた人々には多くいますが、その中でシンドラーは 1 千名、杉原千畝は 6 千名のユダヤ人を救出したそうです。ワレンバークについては、あまり知られていませんが、なんと 10 万人ものユダヤ人を救出したそうです。

●彼が助けたユダヤ人の数の多さに驚きますが、彼は一介のビジネスマンというごく普通の人であったにもかかわらず、なぜそのような大きな働きが出来たのでしょうか。彼はその働きのためにスウェーデンの外交官として

## אגרת שאול אל האפסים

の身分が与えられましたが、当時勢力が強かったナチスに、正面から抵抗してユダヤ人救出の働きを進めることは非常に危険であり、そのためには、相当な覚悟をしなければなりません。しかも彼はごく普通の人物であって、特別な強い勇気や力を持ってはいませんでした。彼は、なぜこのような働きが出来たのでしょうか。彼がユダヤ人救出の働きを受ける決心をしたのは、自分の生涯がこの任務のために備えられていたという強い使命感を自覚した時です。人は、特別な使命感を自覚した時に、強い力を発揮するようです。またこのように危険を冒してまで人を守り救出しようとした人々に共通している事は、幼い時にその人を取り巻く人々の深い愛情によって育てられたということだそうです。彼は、母親（父親は彼が生まれる前に亡くなっています）と祖父の深い愛情の中に育てられました。そのような人は、他の人に対しても愛情深くなるそうです。愛は他に流れ出て行くものだからです。そんな愛が、私やあなたを通して流れて行くようにと祝福することはなんと素晴らしいことでしょうか。

※杉原千畝(すぎはらちうね)

- 第二次世界大戦の際、外務省の命令に反してユダヤ人が亡命できるようにビザを発給。ナチス政権下のドイツによる迫害を受けていたおよそ 6,000 人にのぼるユダヤ人を救ったことで知られ、勇気ある人道的行為を行ったと評価されている。

※ラウル・ワレンバーグ (Raoul Wallenberg 1912 年 8 月 4 日 - 1947 年?)

- 彼はスウェーデンの外交官、実業家。第 2 次世界大戦末期のハンガリーで、迫害されていたユダヤ人の救出に尽力。外交官の立場を最大限に活用して 10 万人にもおよぶユダヤ人を救い出すことに成功した。しかし、ドイツ撤退後に進駐してきたソ連軍に拉致されてから行方不明となった。ワレンバーグの搜索は現代に至るまで続けられている。

### 最後に

— たかが挨拶、されど挨拶 —

- 「恵みと平安が、そして信仰に伴う愛があなたの上にありますように。」というパウロの挨拶(祝祷)はなんとすばらしいでしょうか。それを私たちは日常の生活において、意識的に使うことを決心しましょう。パウロが記したエペソ人への手紙はすばらしい挨拶で始まり、さらに神からくる愛、神と人とに向けられた愛がつけ加えられて終わっています。この挨拶に私たちの心がしっかりと、とどまりますように。